

(2) 東北



東北地域では、景気は持ち直している。

- ・ 鉱工業生産は緩やかに増加している。
- ・ 個人消費はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 雇用情勢は依然として厳しい状況だが、改善が続いている。

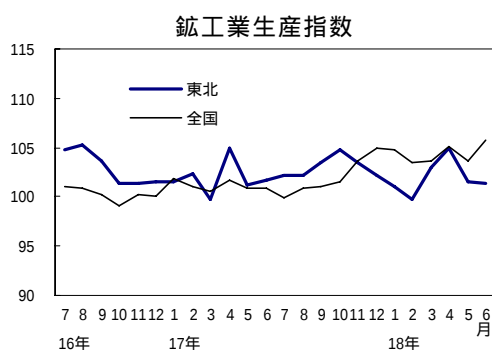
前回調査からの主要変更点

	前回（平成 18 年 5 月）	今回（平成 18 年 8 月）	
住宅建設	減少	大幅に増加	↑

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は緩やかに増加している。

電子部品・デバイスは、携帯電話や液晶テレビ向けのモス型半導体や混成集積回路が好調だったことに加え、DVD-Rなどの光ディスクも好調だったため増加している。食料品・たばこは、冷凍水産食品やたばこが低調に推移したため減少している。情報通信機械は、新機種が好調な携帯電話や地上デジタル対応のパソコンが好調だったため増加している。一般機械は、半導体製造装置や自動車向けの金型、産業用ロボットが引き続き好調だったため増加している。電気機械は工業用計測制御機器やデジタルカメラ向けの蓄電池などが一時的に減産したために、おおむね横ばいで推移している。



(備考) 1. 12年=100、季節調整値。
2. 平成18年6月の東北は速報値。

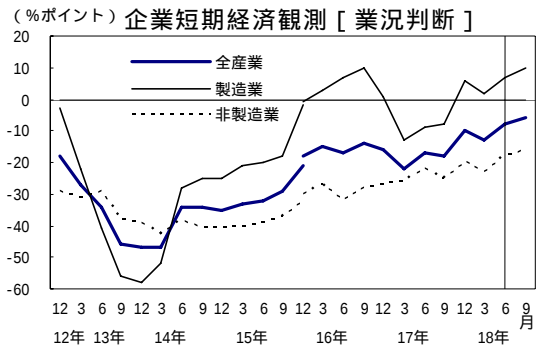
域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		1～3 月期	4～6 月期	4～6 月期	4～6 月期
電子部品・デバイス	19.3	▲11.6	0.6	▲0.7	▲4.3
食料品・たばこ	12.9	▲2.4	▲4.0	▲1.3	▲4.0
情報通信機械	11.6	▲2.8	14.3	9.1	44.6
一般機械	8.6	4.5	9.2	8.2	16.5
電気機械	5.8	▲0.9	▲0.9	▲4.6	2.9
鉱工業	100.0	▲2.1	1.4	1.7	1.7

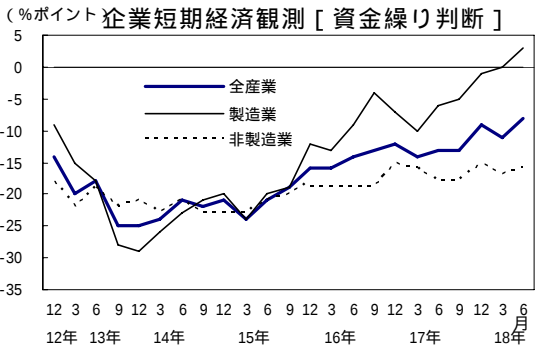
(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。
2. 4～6月期は速報値。

(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が、資金繰り判断は「苦しい」超幅がそれぞれ縮小している。

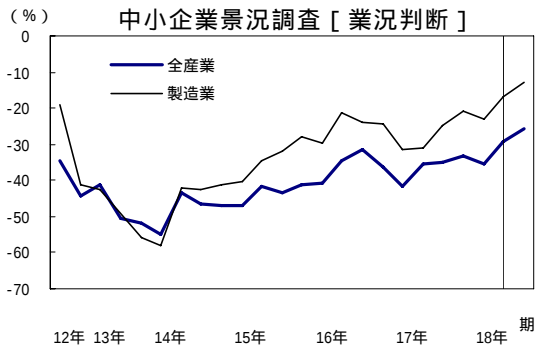
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。18年6月は予測。
15年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
15年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。18年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査 (7 月) [企業動向関連 (現状)]

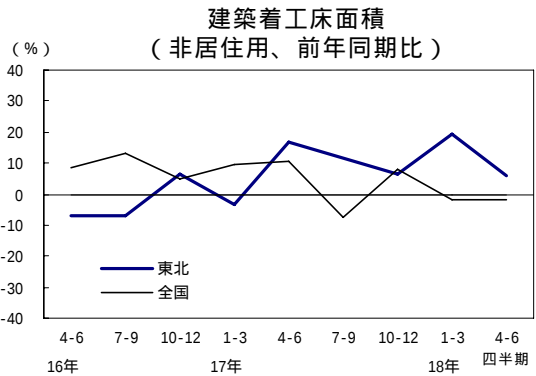
「市内の建設業界はマンションやホテルの建設が活発であるが、実際のところは、利益が出ないものの取引をやめられない状況である (経営コンサルタント) 」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(3) 18 年度の設備投資は前年度を大幅に上回る計画となっている。

企業短期経済観測調査 [設備投資 (6 月調査)]

	(前年度比、 %)	
	17 年度実績	18 年度計画
全 産 業	▲ 4.5 (▲ 2.1)	28.1 (19.1)
製 造 業	▲ 10.3 (▲ 3.9)	50.6 (33.4)
非 製 造 業	1.7 (▲ 0.4)	7.2 (4.5)

(備考)() は前回 (3 月) 調査比修正率。



2. 需要の動向

(1) 個人消費はおおむね横ばいとなっている。

大型小売店販売額及びコンビニエンスストア販売額

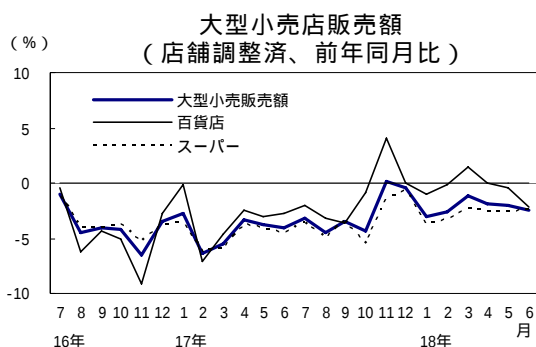
百貨店は4月は、主力の衣料品が、気温が低かったことから春物衣料がふるわず、身の回り品は、ハンドバッグなどが伸び悩んだことなどから前年を下回った。5月は婦人服を中心に衣料品に動きがみられたものの身の回り品や飲食料品が不調であったため前年を下回った。

6月は天候不順の影響により夏物衣料が不調だったため前年を下回った。また、宝飾品や高級時計、絵画などの高額品は4～6月にかけて好調に推移している。なお日本百貨店協会によると、東北地区の7月の売上高は前年同月比で1.4%減となっている。

スーパーは、酒、総菜が好調だったものの精肉や果物などが低調に推移したことや天候不順のため衣料品が伸び悩んだため全体では前年を下回った。

景気ウォッチャー調査(7月)[家計動向関連(現状)]

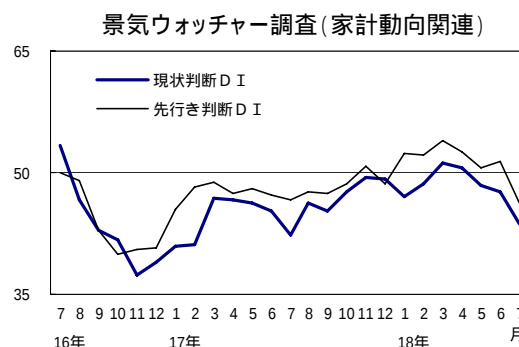
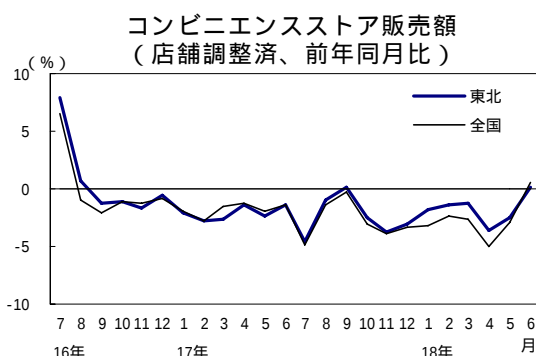
「天候不順でカットソー等夏物は苦戦した。特に水着は前年比79%と苦戦だったが羽織りものの感覚の七分袖のブラウス、ジャケット等が良く、単価アップにつながった(百貨店)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。



	(前年同期比、%)			
	17年7-9月	10-12月	18年1-3月	4-6月
大型小売店	▲3.7	▲1.5	▲2.3	▲2.1
百貨店	▲2.9	0.9	0.1	▲0.9
スーパー	▲4.0	▲2.5	▲3.1	▲2.5
コンビニ	▲1.8	▲3.1	▲1.5	▲2.0
景気ウォッチャー	44.6	48.7	48.9	48.9

(備考) 1. 大型小売店及びコンビニは店舗調整済。

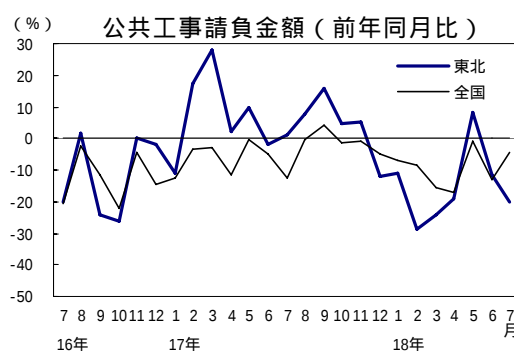
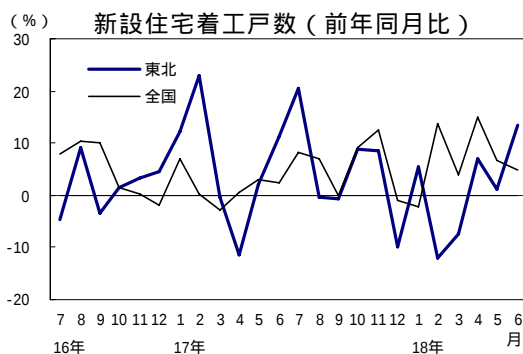
2. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断DIの3か月平均。



(2) 住宅建設は大幅に増加している。

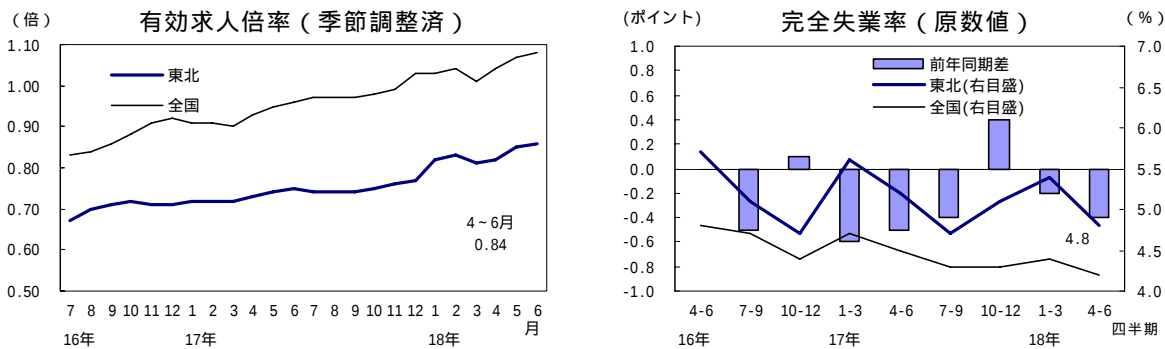
貸家や分譲が前年を上回ったことから、全体でも大幅に増加している

(3) 公共投資は18年度累計でみると前年度を下回っている。



3. 雇用情勢等

- (1) 雇用情勢は依然として厳しい状況だが、改善が続いている。
有効求人倍率及び完全失業率
有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期を下回っている。

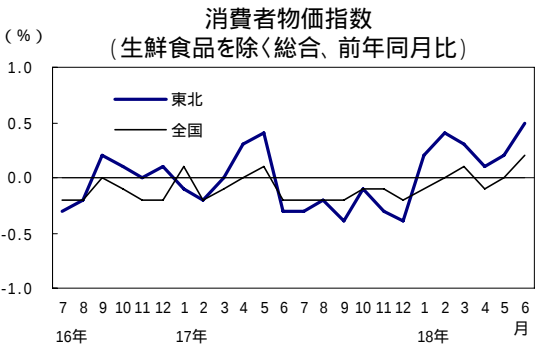


景気ウォッチャー調査（7月）[雇用関連（現状）]
「住宅業界や、郊外の工場が好調で採用の道が開けつつある（人材派遣会社）」など、「良くなっている」とする回答が多くみられた一方で、「求職者数が減少しているが、求人数も減少しており厳しい（職業安定所）」など「変わらない」とする回答もみられた。

- (2) 企業倒産は、件数、負債総額ともに減少している。
- (3) 消費者物価指数はおおむね横ばいとなっている。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	7-9月	10-12月	18年1-3月	4-6月	18年7月
倒産件数	248	218	225	234	84
(前年比)	11.7	▲8.8	▲3.8	▲5.3	10.5
負債総額	983	734	680	720	309
(前年比)	121.3	▲48.9	▲18.3	▲24.7	▲38.0



- 景気ウォッチャー調査（7月）[合計（特徴的な判断理由）]
<現状>
・法人利用や問い合わせ件数から回復基調にあり、料金も値引き要請が減っている（都市型ホテル）
<先行き>
・来月もガソリンの値上げのため厳しい。掛け売り客に値上げ分を転嫁できないと経営も悪化する（その他専門店〔ガソリンスタンド〕）

